資料4-4

自動車リサイクル制度に係る JAIAおよび輸入車インポーターの情報発信

2015年11月24日（火）

日本自動車輸入組合(JAIA)
Japan Automobile Importers Association

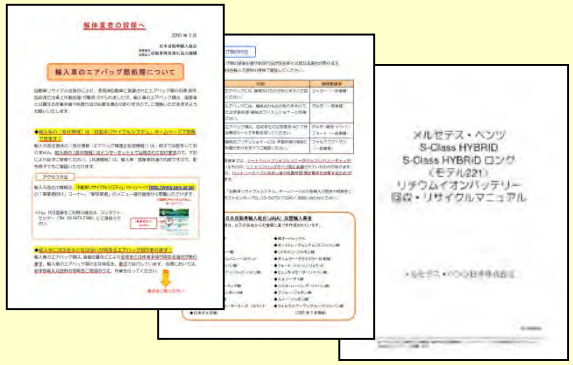
Contents

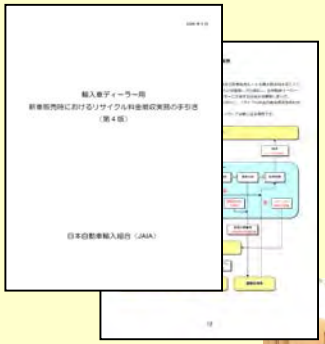
1. JAIAから関係者への情報発信
2. 環境配慮設計の取組みの公表
3. ELV指令に基づく再生資源の利用拡大
4. 参考情報（リサイクル料金の低減）
5. 今後の課題

1. JAIAから関係者への情報発信

（1）業界団体としての取組み

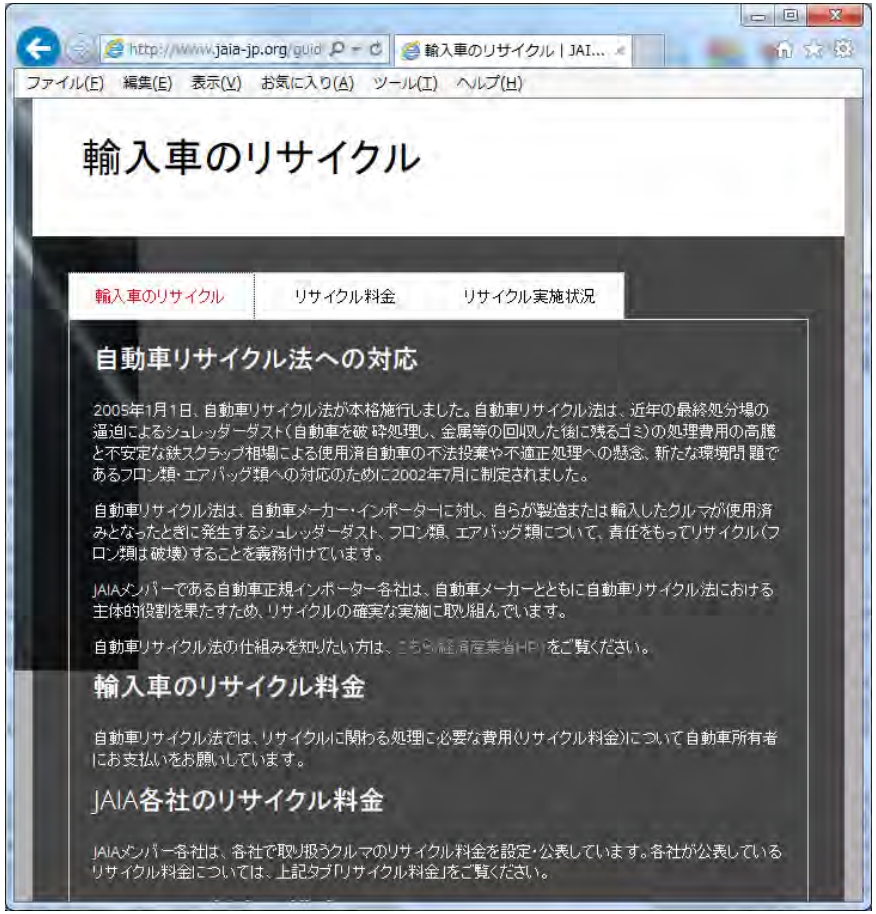
関連業者へ	ユーザーへ	ディーラーへ
解体、リサイクル促進の為の情報	リサイクル料金、リサイクル実績、3Rの取組み、製品の環境情報	リサイクル料金預託等各種実務の情報
輸入車各社及び自動車再資源化協力機構（自再協）、ASRチームを通じて情報提供 ・エアバッグ類適正処理情報 ・全部再資源化促進関連情報 ・駆動用リチウムイオン電池の回収スキーム、解体マニュアル	・ホームページ掲載 ・サステナビリティレポート発行	・預託実務マニュアル作成

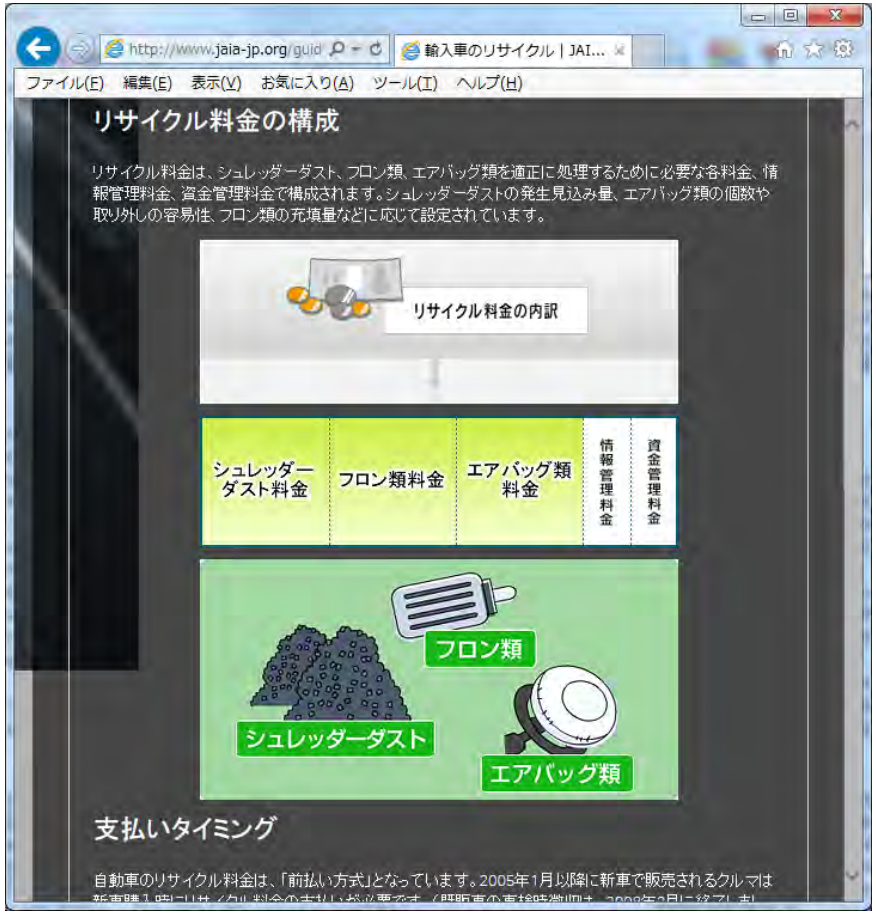




1. JAIAから関係者への情報発信

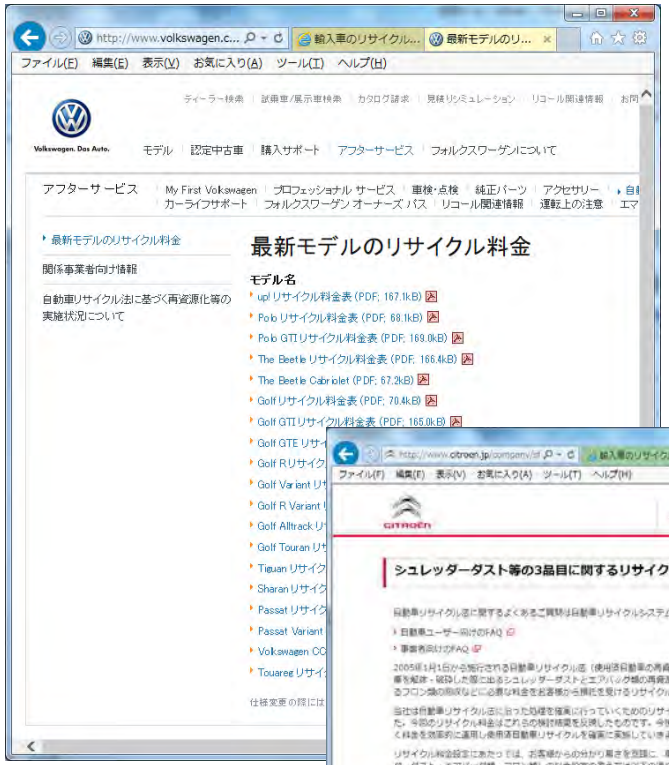
（2）JAIA HPでユーザーへ自動車リサイクル法・制度、リサイクル料金に関する情報を提供

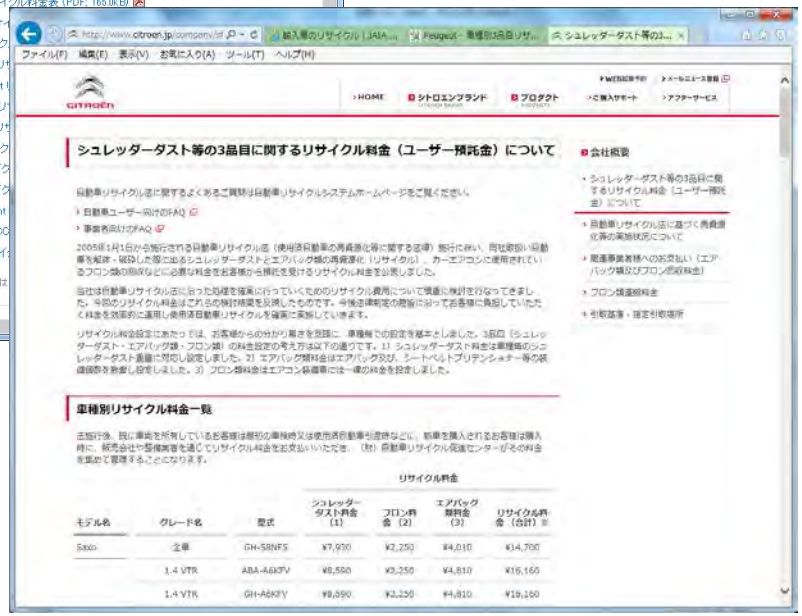




1. JAIAから関係者への情報発信

（3）JAIA HP上に輸入車のリサイクル料金及びリサイクル実績のポータルサイトを設置し、輸入車各社の掲載ページを案内





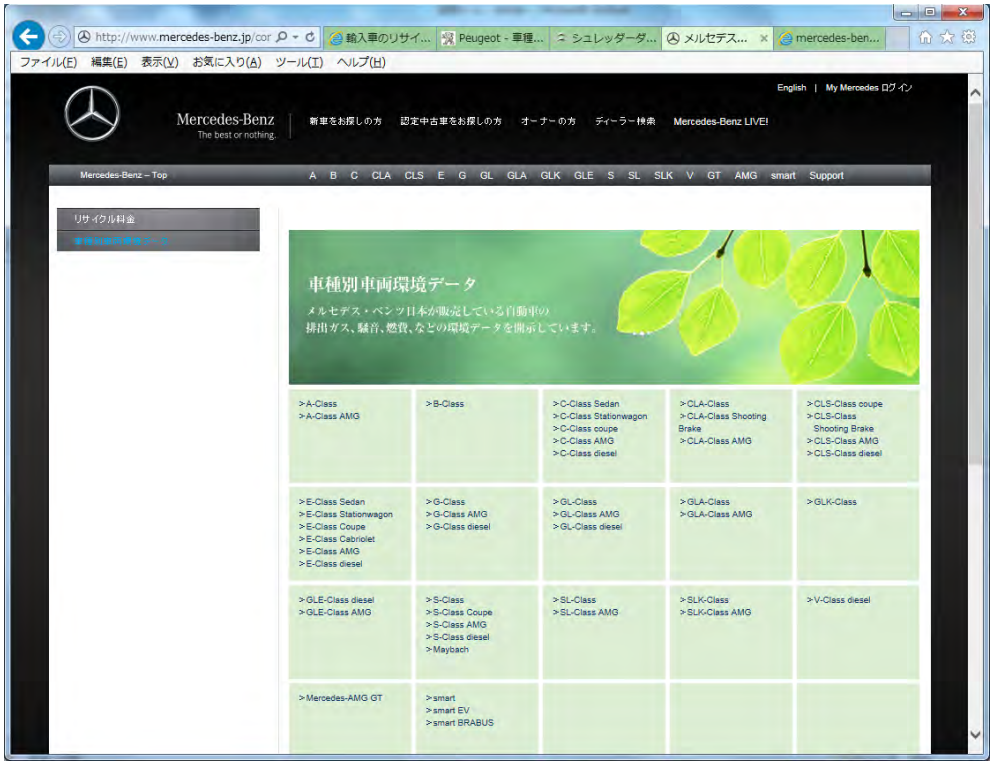
2. 環境配慮設計の取組みの公表

（1）ボルボ・カー・ジャパンの取組み

- 排出ガスレベルの規制値、燃料消費率、CO排出量、騒音性能、冷媒の種類・量やリサイクル設定の有無等を記載した冊子を作成し、ユーザーへ提供。

（2）メルセデス・ベンツ日本の取組み

- 自社HPの中で各モデルのリサイクル配慮設計等の環境データを公開。



【参考】

- BMWは、本社解体工場にて開発段階の車両の解体性試験を行い開発段階で、自社基準において一定の解体性を担保するようにしている。

3. ELV指令に基づく再生資源の利用拡大

（1）Daimlerの取組み

- 本国サイトで主力モデルの再生原料の使用状況等を公開。
- 再生原料はホイールアーチライニング、アンダーボディパネルなど、主にPP材（ポリプロピレン）からなる部品に使用される。

（2）BMWの取組み

- 熱可塑性樹脂の20%程度が再生材を使用し、日常で直接手に触れる部品への採用も始めている。

4. 参考情報（リサイクル料金の低減）

（1）ISO対応エアバッグ

- 解体段階における作業時間の短縮のため、ISO規格一括作動処理ツールに対応したエアバッグの搭載を進めている。
- インポーターによっては、2015年の新車販売台数の8割以上が当該エアバッグ搭載車となっている。

（2）フロン類の冷媒転換

- 自動車リサイクル法に基づく回収義務のない、HFO-1234yfへの転換を始めている。

5. 今後の課題

- 輸入車のインポーターの組織は、販売、マーケティング、アフターセールスの機能は有するが、開発機能は有していないことから、環境配慮設計に係る情報の入手が難しい。従って、環境配慮設計の定義の議論や出される結論の検証も困難になると思われる。
- 環境配慮設計の定義およびそれに基づくリサイクル料金の低減等の施策については、検討の段階からJAIAとしても積極的に参画・貢献する所存である。なお、環境配慮設計の定義作りに際しては、国際動向も踏まえ、シンプルなものを望む。